



母校坂野中学校の思い出

第44回卒業生 吉田 資 継

中学校を卒業してちょうど四半世紀が過ぎてしまった。このページを読んでいただいた方が、当時の出来事や、友達のこと、自分自身が考えていたことなどを思い出し、懐かしむと共に、今後の人生を歩むためのささやかな活力となっただけならばとてもうれしい。

中学校の思い出といえば、人それぞれであるが、誰もが共通して良き思い出となっているのがやはり修学旅行だと思う。秋芳洞、阿蘇山、異国の文化が漂うグラバー園、地獄には行きたくないと思った別府温泉の地獄巡りなど、本当に楽しい思い出である。帰りのフェリーの中で過ごした一夜も忘れられない。とにかく狭かった。誰もほとんど身動きができない状況の中で寝なければならなかった。しかし、だからこそよく覚えているのだと思う。

個人的に言えば、1年生はA組で、担任は藤岡アキエ先生だった。「人の振り見て我が振り直せ」とよく教えられたことを覚えている。休み時間には、給食室に向かう通路で「だるまさんが転んだ」の遊びが一時流行った。とても楽しかった。2年生はC組で、担任は中原恵子先生だった。中原先生のこと一番印象に残っているのは、バスの中で山口百恵の「いい日旅立ち」を歌ってくれたことである。とても上手な歌声だったからか、みんなが聞き入っていたように思う。3年生はC組で、担任は西田宏先生だった。数学の時間には、「素直でないけん解けんのんじょ」とよく言われた。文化祭のクラスの出し物は、うどんの早食い、コーラなどの早飲み競争をしたように思う。体育祭では、学級旗を掲げることになっていた。クラスの数名の女子が毎日夜遅くまで色を塗り、見事に仕上げたことを覚えている。体育祭の最後のクラス対抗リレーに、3年C組の男子は、広瀬恭明君、藤崎雅弘君、広岡和彦君と自分が出場した。大接戦の末最後にアンカーの広岡君が激走し、優勝することができた。クラスみんながとても興奮していたことをいまでも鮮明に覚えている。

部活動は、サッカー部だった。サッカーが上手な友達がたくさんいたので、総体では小松島中学校に勝つことができた。今でも同じサッカー部であった野口隆宏君、豊実祐之君と一緒にフットサルをしている。また、当時のサッカー部の監督は桑田郁男先生であったが、桑田先生にとって今年度は長い教師生活最後の年である。閉校を迎える坂野中学校の最後を見届けてくださるのが恩師である桑田校長先生で本当によかった。

坂野中学校という校名は今年度で無くなるが、私たち坂野中学校の卒業生はもちろん、坂野中学校を支えてくださった先生方や保護者の方々、地域の方々の心の中には、永遠に生き続けると思う。坂野中学校の卒業生であるという誇りを胸にこれからも生きていきたい。